

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																																					
日本工学院八王子専門学校	昭和62年3月27日	前野 一夫	〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																																																					
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																																					
学校法人片柳学園	昭和31年7月10日	千葉 茂	〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																																																					
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																																				
文化・教養	芸術専門課程	音響芸術科	平成9年文部科学大臣 告示号外第229号	—																																																				
学科の目的	音楽・音響ソフトに関する専門知識、技術を学び、映像・音響ソフト産業のコンテンツ制作で幅広く活躍できるサウンドエンジニアを養成する。																																																							
認定年月日	平成27年2月17日																																																							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は単位数	講義	演習	実習	実験																																																		
2年	昼間	1725時間	990時間		1350時間																																																			
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																																			
80人	121人	2人	2人	18人	20人																																																			
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	<p>■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S：90点以上 A：80～90点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下は不合格 P：単位認定</p>																																																			
長期休み	■学年始：4月1日～ ■夏 季：7月21日～8月31日 ■冬 季：12月23日～1月8日 ■学年末：3月18日～3月31日			卒業・進級条件	<p>進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること</p>																																																			
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。			課外活動	<p>■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動：有</p>																																																			
就職等の状況※2	<p>■主な就職先、業界等（平成30年度卒業生） 株式会社音響ハウス プロセンスタジオ株式会社 株式会社東京サウンド・プロダクション 株式会社キング閣口台スタジオ 株式会社IMAGICA Lab.</p> <p>■就職指導内容 履歴書作成指導、面接指導、メンタル指導、個人面談、その他社会人としてのマナー指導など。</p> <table border="1"> <tr> <td>■卒業者数</td> <td>47</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職希望者数</td> <td>45</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職者数</td> <td>41</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職率</td> <td>91.1</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>■卒業者に占める就職者の割合</td> <td colspan="2">：</td> </tr> <tr> <td></td> <td>85.7</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>■その他</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>・進学者数</td> <td colspan="2">1名</td> </tr> <tr> <td>(平成</td> <td colspan="2">30 年度卒業者に関する</td> </tr> <tr> <td colspan="3">令和1年5月1日 時点の情報)</td> </tr> </table>			■卒業者数	47	人	■就職希望者数	45	人	■就職者数	41	人	■就職率	91.1	%	■卒業者に占める就職者の割合	：			85.7	%	■その他			・進学者数	1名		(平成	30 年度卒業者に関する		令和1年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	<p>■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業者に関する令和元年5月1日時点の情報)</p> <table border="1"> <tr> <td>資格・検定名</td> <td>種別</td> <td>受験者数</td> <td>合格者数</td> </tr> <tr> <td>舞台機器調整技能士</td> <td>(2)</td> <td>26人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス検定3級</td> <td>(3)</td> <td>47人</td> <td>47人</td> </tr> <tr> <td>ProTools技術認定</td> <td>(3)</td> <td>14人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>サウンドレコーディング技術認定</td> <td>(3)</td> <td>22人</td> <td>22人</td> </tr> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）</p> <p>■自由記述欄</p>		資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	舞台機器調整技能士	(2)	26人	11人	ビジネス検定3級	(3)	47人	47人	ProTools技術認定	(3)	14人	14人	サウンドレコーディング技術認定	(3)	22人	22人
■卒業者数	47	人																																																						
■就職希望者数	45	人																																																						
■就職者数	41	人																																																						
■就職率	91.1	%																																																						
■卒業者に占める就職者の割合	：																																																							
	85.7	%																																																						
■その他																																																								
・進学者数	1名																																																							
(平成	30 年度卒業者に関する																																																							
令和1年5月1日 時点の情報)																																																								
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																																					
舞台機器調整技能士	(2)	26人	11人																																																					
ビジネス検定3級	(3)	47人	47人																																																					
ProTools技術認定	(3)	14人	14人																																																					
サウンドレコーディング技術認定	(3)	22人	22人																																																					
中途退学の現状	<p>■中途退学者 6名 平成30年4月1日時点において、在学者118名（平成30年4月1日入学者を含む） 平成31年3月31日時点において、在学者111名（平成31年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由</p> <p>学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 担任と科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。</p> <p>担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談を行っている。また、休学者にも復学（転科等）の指導・助言・相談も行っている。</p>			■中退率	5.1 %	(休学1名含まず)																																																		

経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有・無 ・片柳学園入学金免除制度・片柳学園付型奨学金制度・再入学優遇制度・片柳学園奨学金制度・留学生特別給付制度 ・ミュージシャン特待生・スポーツ特待生・IT資格特待生</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 納付対象・非納付対象</p> <p>※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 有・無 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日) 受審 http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</p>
当該学科のホームページ [URL]	https://www.neec.ac.jp/department/

(留意事項)

1. 公表年月日（※1）

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況（※2）

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1) 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2) 「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時の仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

(3) 上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果（※3）

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

レコーディング、映像分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施し、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラムに反映させる。またレコーディング分野に関し、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。授業科目のシラバスをもとに、科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、内容や評価方法を定める。また、学習評価を踏まえ、授業内容及び方法について検証する。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成31年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	①
菅原 恭史	株式会社フリーマーケット	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	③
村尾 博一	株式会社ジーリンクスタジオ	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	③
前野 一夫	日本工学院八王子専門学校 校長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	
朝比奈 孝浩	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	
加茂 文吉	日本工学院八王子専門学校 主任	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	
荒井 哲子	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 課長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

年2回（3月・9月）

（開催日時（実績））

第1回 平成30年9月12日（水） 11：00～12：30

第2回 平成31年3月28日（水） 11：00～13：00

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会から、基礎知識の徹底に関するご意見を頂いたので、基礎実習及び基礎演習の授業内容を精査し、より体験型の習得しやすい授業への展開を進める。また、実習環境も次世代の授業に対応するべく、ICTの導入などの研究、検討を速やかに進めることとする。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

レコーディングの実習において実践的な指導を受けるために音楽録音の実績のある企業を選定している。また、指導を受けるにあたっては各分野で必要となる知識、技術、感性を有している講師の派遣などの協力が得られることが可能な企業を選定している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

連携企業からの意見等を参考にし、音楽録音の仕組みや新技術などの技術提供を基にした実習へのフィードバックを行い、次年度のカリキュラムに反映させている。演習などの授業内容を映像化し、委員に見てもらいながら検証を行い、改善点などをフィードバックしてもらう。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
実習1	レコーディング・M A・ラジオ等のスタジオワークに必要となる、各種機材の基礎知識、基本となる作業、挨拶を含めた各種マナー等を学ぶ。	ミキサーズラボ
実習2	<p>【レコーディングエンジニア専攻】 楽器へのマイクセッティング、SSLのレコーディングモード、エフェクター（コンプレッサー、ゲート、イコライザー、リバーブなど）の実習やPro Toolsを使用したレコーディング。Pro Toolsのオペレート、エディット、バンドレコーディング（練習、本番）、バンドレコーディング ミキシング実習</p> <p>【M Aエンジニア専攻】 ミキサーの基本操作、Pro Toolsを使用した収録、Pro Toolsのオペレート。基本操作、エディット、映像に対するオペレート。エフェクターの基本操作、効果的な使用方法。M Aにおけるスタジオワーク、マイクセッティング、映像の取り込み、ナレーション収録など。T V C M制作、C Mの企画、絵コンテ制作、映像編集、サウンドデザイン、M A、試写会、評価を行う。</p> <p>【ラジオミキサー専攻】 ミキサーの基本操作、マイクセッティング、Pro Toolsによる収録、エディット、Pro Toolsのオペレート。 Pro Toolsによるラジオ番組制作、番組の企画、台本制作、スタジオ収録、ポータブルミキサーの操作を行う。</p>	ミキサーズラボ
卒業制作	専攻ごとに学んだ知識を生かして、実践的な作品制作を行います。	ミキサーズラボ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

- ・学生の在籍管理に関する情報共有と管理方法の確認に関する教員研修
- ・新技術を含めた専門的教育に関する研修
- ・分野ごとの専門知識習得に関する研修

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「メディアの未来と人材育成について」

（連携企業等：株式会社ホットスタッフ・プロモーション）

期間：4月26日（木）

対象：音響芸術科、コンサート・イベント科、放送芸術科 教員

内容：J-WAVE松尾様を招いての特別講義：ラジオ業界の今後の展開ではあらゆるメディアとのコラボレーションが必須となり、今後はプロデュース能力、企画力、推進力の必要性とカリキュラムへの展開を検討する。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「科長研修」

(連携企業等： 慶應メディアデザイン研究科)

期間：7月30日（月）

対象：カレッジ全科長

内容：クリエイティブエンジニアの金 稔淳氏を講師にお招きし、デザインシンキングの基本的な考え方と実際にそれをどのように日常の業務に活用するかを学ぶ。後半はデザインシンキングとカレッジ教育というテーマで演習形式のグループワークを行う。後日、この内容を学科運営、授業・実習に取り入れるため教員に伝える。

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「未定」

(連携企業等：未定)

期間：未定

対象：専任教員

内容：音響最新技術への研究と導入について

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「海外研修旅行を通じたキャリヤ教育」

(連携企業等：講師 小寺 良二 様)

期間：9月2日（月）

対象：ミュージックカレッジ全教員

事前研修、本番（渡航）を通して体験したことを将来の就職活動や仕事に活かすことを目標とした海外研修旅行のテーマに基づいた日本文化のまとめ方と相手に伝わる英訳の仕方、さらに効果的な発表方法のポイントやいいところを褒めることで学生のやる気を促す指導方法を学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3) 教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4) 学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6) 教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7) 学生の受け入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8) 財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守(33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献(37)ボランティア活動
(11) 国際交流	

※（10）及び（11）については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

保護者との連携を強化するために保護者会を継続して実施した方が良いとの意見から、学内保護者会および学外会場を増やし、学生へのサポート体制の充実を図る。学生のコミュニケーション能力向上のため、八王子協定ボランティアへの積極的参加を促したり、学科・カレッジを越えた地域連携・企業連携課題などで協働作業を進めコミュニケーション能力向上を図っていく。

社会人の学び直し講座については、実施時期や内容を精査しながら実証研究事業などを参考に再検討していく。

今年度も引き続き教員の就労環境の改善をはかりながら、自発的な能力開発及び向上を目的とした「学校法人片柳学園職員自己啓発支援制度」を活用し、教員の研修体制を整えていく。また、女性管理職育成の取組として、女性活躍推進研修を実施した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成31年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会长 (セントラルエンジニアリング 株式会社 グループマネージャー)	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	卒業生／IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	地域関連
三井 隆裕	株式会社 NVC(ヌーベルバーグカンパニー) 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	医療 企業等委員
宮崎 豊彦	八王子市私立保育園協会 会長 城山保育園 園長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	医療・保育 団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 ()) 平成30年9月10日

URL : <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、平成29年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

授業科目等の概要

(芸術専門課程 音響芸術科) 2019年度						配当年次・学期	授業時間数	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	講義	演習	実習	校内	校外	専任	兼任	校内	校外	専任	兼任	
○			キャリアプランニング1	自分の人生のキャリアについて、すべてに共通するスキルを学びます。	1・前	30	2	○			○	○				
○			キャリアプランニング2		1・後	30	2	○			○	○				
		○	スポーツ実習1	レクリエーションを兼ねた短期のスポーツ講座を、カレッジ全体で行います。	1・通	30	1			○	○	○				
		○	ボランティア1	社会貢献、地域貢献といった体験を通して、自身も社会に関わる喜びを得ていきます。	1・通	30	1			○		○	○			
○			外国語1	ネットなどを通じて音楽が世界に広がっている現在、音楽で必要な外国語を学びます。	1・前	30	2	○			○			○		
○			外国語2		1・後	30	2	○			○			○		
		○	キャリアゼミ1	各進路に対応する専門分野の教員が指導するゼミです。	1・後	15	1	○			○	○				
		○	資格対策講座1	ビジネス能力検定（B検）ジョブパス、JPPA映像音響処理技術者試験、Pro Tools、イベント検定試験、MIDI検定、MOSなどの資格受験対策講座です。	1・前	15	1	○			○			○		
		○	資格対策講座2		1・後	15	1	○			○			○		
		○	特別講義1	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	1・前	15	1	○			○			○		
		○	特別講義2		1・後	15	1	○			○			○		
		○	マルチメジャー1	自分が選択している専攻・コース以外に、学科の枠にとらわれず幅広く学ぶ授業です。	1・後	15	1	○			○	○				
		○	ライブステージ鑑賞1	アーティストの生演奏や講演などを聴き、アーティストおよび周辺も含めたプロの技術を学びます。	1・通	15	1	○				○	○			
		○	海外研修	各学科の特色に基づいたプランで、本場のエンタテインメントを体験します。（研修先・行程は毎年異なります。）	1・後	30	1			○		○	○			
		○	インターンシップ1	本校提携・協力関係の企業で行われる企業研修です。	1・後	30	1			○		○	○			
○			音楽基礎1	音楽に関する者として必要な基礎知識を学びます。楽譜の読み方をはじめ、各学科の特性に合わせた内容も学んでいきます。	1・前	30	2	○			○			○		
○			音楽基礎2		1・後	30	2	○			○			○		
○			総合業界研究1	音楽・音響業界の現状を含め、さまざまな知識を学び研究します。	1・前	30	2	○			○			○		
○			総合業界研究2		1・後	30	2	○			○			○		
		○	ライブ・エンタテインメント1	ホール、舞台の機構、音響などの知識を学びます。（舞台機構調整技能検定の内容を含む）	1・前	30	2	○			○			○		
		○	ライブ・エンタテインメント2		1・後	30	2	○			○			○		

		○	サウンドシステム 1	エンジニアやクリエイターに欠かせない音響などの知識から、ミキシング技術までを学びます。	1・前	30	2	○			○		○
		○	サウンドシステム 2		1・後	30	2	○			○		○
		○	オーディオ & ビジュアル 1	音響や映像の機器、映像の基本原理やフォーマット、現在必須となっているファイルベースの管理办法などを学びます。	1・前	30	2	○			○		○
		○	オーディオ & ビジュアル 2		1・後	30	2	○			○		○
		○	実習 1	スタジオワークの基礎となる実習を行います。	1・前	120	4			○	○		○ ○
		○	実習 2	専攻ごとに専門的な実習を行います。	1・後	120	4			○	○		○ ○
		○	演習 1	実習で必要となる知識や準備を行います。	1・前	60	2			○	○		○
○			演習 2		1・後	60	2			○	○		○
○			Pro Tools 1	Pro Tools101の資格に沿った知識を学びます。	1・前	30	2	○			○		○
○			Pro Tools 2	Pro Tools110の資格に沿った知識を学びます。	1・後	30	2	○			○		○
○			Pro Tools 実習 1	Pro Toolsの操作をはじめ、必要な技術を学びます。	1・前	30	1			○	○		○
○			Pro Tools 実習 2		1・後	30	1			○	○		○
○			キャリアプランニング 3	自分の人生のキャリアについて、すべてに共通するスキルを学びます。	2・前	30	2	○			○		○
		○	キャリアプランニング 4		2・後	30	2	○			○		○
		○	スポーツ実習 2	レクリエーションを兼ねた短期のスポーツ講座を、カレッジ全体で行います。	2・通	30	1			○	○		○
○			ビジネスストレーニング 1	音楽業界を含む、社会人として必要な事を学び、理解を深めます。	2・前	30	2	○			○		○
		○	ビジネスストレーニング 2		2・後	30	2	○			○		○
		○	ボランティア 2	社会貢献、地域貢献といった体験を通して、自身も社会に関わる喜びを得ていきます。	2・通	30	1			○		○	○
		○	カレッジプロジェクト	学生委員会、クラスなどで計画したプロジェクトや自主コンサート、ボランティア活動などを実行します。	2・通	30	1			○	○		○
		○	キャリアゼミ 2	各進路に対応する就職活動に特化したゼミです。	2・前	15	1	○			○		○
		○	キャリアゼミ 3		2・後	15	1	○			○		○
		○	資格対策講座 3	ビジネス能力検定（B検）ジョブパス、JPPA映像音響処理技術者試験、Pro tools、イベント検定試験、MIDI検定、MOSなどの資格受験対策講座です。	2・前	15	1	○			○		○
		○	資格対策講座 4		2・後	15	1	○			○		○
		○	特別講義 3	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	2・前	15	1	○			○		○
		○	特別講義 4		2・後	15	1	○			○		○
		○	マルチメジャー 2	自分が選択している専攻・コース以外に、学科の枠にとらわれず幅広く学ぶ授業です。	2・前	15	1	○			○		○

		○	ライブステージ鑑賞 2	アーティストの生演奏や講演などを聴き、アーティストおよび周辺も含めたプロの技術を学びます。	2・通	15	1	○				○	○	
○			音楽基礎 3	音楽に関わる者として必要な基礎知識を学びます。楽譜の読み方をはじめ、各学科の特性に合わせた内容も学んでいきます。	2・前	30	2	○			○			○
		○	音楽基礎 4		2・後	30	2	○			○			○
○			総合業界研究 3	音楽・音響業界の現状を含め、さまざまな知識を学び研究します。	2・前	30	2	○			○			○
		○	総合業界研究 4		2・後	30	2	○			○			○
○			ライブ・エンタテインメント 3	ライブサウンドなど、現在の音楽シーンに欠かせない知識を学びます。	2・前	30	2	○			○			○
		○	ライブ・エンタテインメント 4		2・後	30	2	○			○			○
○			サウンドシステム 3	エンジニアやクリエイターに欠かせない音響などの知識から、ミキシング技術までを学びます。	2・前	30	2	○			○			○
		○	サウンドシステム 4		2・後	30	2	○			○			○
○			オーディオ&ビジュアル 3	音響や映像の機器、映像の基本原理やフォーマット、現在必須となっているファイルベースの管理办法などを学びます。	2・前	30	2	○			○			○
		○	オーディオ&ビジュアル 4		2・後	30	2	○			○			○
○			実習 3	専攻ごとに専門的な実習を行います。	2・前	120	4			○	○		○	○
○			演習 3	実習で必要となる知識や準備を行います。	2・前	60	2			○	○			○
		○	卒業制作	専攻ごとに学んだ知識を生かして、実践的な作品制作を行います。	2・後	180	6			○	○		○	○
○			Pro Tools 3	Pro Toolsの上級資格に沿った知識を学びます。	2・前	30	2	○			○			○
○			Pro Tools 実習 3	Pro Toolsについてより専門的な技術を学びます。	2・前	30	1			○	○			○
		○	メディア研究	音楽業界で必要となる知識や、Pro Toolsをはじめとするアプリケーションを含む技術を学びます。	2・後	60	4	○			○			○
		○	インターンシップ 2	本校提携・協力関係の企業で行われる企業研修です。また、内定した企業で行われる長期研修で	2・後	450	15			○		○	○	
合計				65 科目	2340単位時間(111単位)									

卒業要件及び履修方法					授業期間等			
卒業時に必修科目1350時間(69単位)取得および選択科目を450時間(15単位)以上取得し、合計1800時間(84単位)以上取得すること					1学年の学期区分		2期	
					1学期の授業期間		15週	

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。